

# 埼玉育ちのグローバル人

## Vamos

### 第2回 「いざスペイン・マラガへ」

#### 令和元年度「埼玉発世界行き」奨学生

#### 小山 桃果さん



#### ■いざ出発、マラガは不思議な町？

初めてのスペイン。初めての留学。初めての外国での生活。少し不安もあるけれど、ワクワクの気持ちもある、そんな複雑な気持ちで日本を出発しました。

マラガ県は、南のアンダルシア地方にあります。海が近くにあり、夏のビーチは多くの観光客でいっぱいになります。マラガに到着した次の日に、町歩きを始めました。アイスクリームを食べ歩くおじいちゃんとおばあちゃん、観光客を乗せた馬車、ショッピングを楽しむ学生たち・・・照りつける太陽の下で、町は多くの人で賑わっていました。ちょっと歩くと、アルカサバというイスラム時代の建築物や、ローマ劇場の遺跡があります。マラガは歴史のある町です。古くから残る歴史的建築物が町の中心にある、この「今」と「昔」がミックスした不思議な町の雰囲気が好きでした。



カラッと晴れたマラガのビーチ



観光客でにぎわう港

#### ■窓、鏡、水、タイル・・・

どうしてスペインのマラガ？これにはいくつか理由がありました。まず初めに、スペインの古代と中世時代の建築物に興味を持ったことです。獨協大学在学中、2年生の時に履修した「スペインの古代・中世の歴史の授業」をきっかけに、特にイスラム建築物に惹かれました。座りながら外の景色を見られるように低く設置される窓、空や建物を映し出す「鏡」的な水の存在、花や葉っぱの模様のタイル・・・これらのイスラム建築の要素は、「実際に見てみたい」と、強く興味をそそられました。マラガ大学では、古代と中世の歴史の授業を履修することができました。

その他、マラガを選んだ理由。それは、マラガのあるアンダルシア地方が、約800年間イスラム教徒に支配されていたため、近くには中世の建築物

が残っているからです。有名な建築物でいうと、グラナダ県のアルハンブラ宮殿、コルドバ県のメスキータ、セビーリャ県のアルカサルなどです。これまで写真でしか見たことのなかった建築物を、直接見られた時の喜び！を今でも覚えています。また、歴史やその建築の要素を勉強してから訪れると、「先生の言っていたことはこういうことか！」と、直接見に行く面白さが倍増しました。



カフェから撮ったグラナダ県のアルハンブラ宮殿



セビーリャ県のスペイン広場

■ドキドキの授業

マラガ大学の場合、現地の大学生と同じ授業を一緒に受けます。残念ながら外国人向けのスペイン語の授業はありません。日本と同様に履修登録期間があるので、その間に興味のある授業を見に行きました。授業の内容に興味があるかはもちろんですが、先生が自分に合っているか（話すスピード、先生の雰囲気、授業の評価方法等）、生徒の雰囲気・・・これらは私にとって、授業選びの大切な

ポイントでした。スペイン語そのものの理解、そして授業の内容の理解、2つを理解しなければならないので大変でした。しかし、仲良くなったスペイン人の友達が、テストやプレゼンテーションを手伝ってくれて乗り越えられました！



通っていた大学の建物



ボリュームいっぱい☆約 500 円の学食

■「スペイン語で会話しよう!」、なぜならルームメイトは多国籍

シェアしていたルームメイトは、イタリア人、フランス人、チリ人の3人、私含めて計4人です。外食したり、お家でご飯を食べたりしました。「スペイン語で話そう」がルールだったので、彼らとの会話はスペイン語でした。（チリの人はスペイン語が母語なので、間違っていたら教えてもらいました。）その後、先に帰国するメンバーと入れ替わりで、台湾と、別のチリの女性が引っ越してきました。台湾料理を食べたり、お寿司を食べたり、台湾のお茶を飲んだり、ビーチに行ったりして、時間はあっ



という間に過ぎていきました。私は以前茶道部に入っていたため、スペインにお茶の道具をいくつか持っていきました。竹でできた茶笥は、作りが繊細で、外国人は興味を持ってくれました。



ルームメイトとの夕食（本人：左端）



友達とビーチでピクニック（本人：左端）

### ■誰も教えてくれない「楽しみ方」

留学中、多くの出会いに恵まれました。その間に会った人から「人生を楽しむ方法」を、間接的に教えてもらった気がします。ビーチに行って本を読んだり、バルで夜遅くまで会話を楽しんだり、長い休みを取って海外旅行に出かけたり・・・多くの人が日常を楽しんでいて、それが伝わってきました。また、私の外国の友達の中には、20代後半でフランスに留学に行く人、40代で大学に通う人が居ました。「新しいことに挑戦すること」「好きなことをすること」、これは「何歳でもできる!」と、気づくことができました。これまで「〇歳までに〇〇しなきゃ」と、決めつけていた私にとって、大切

な気づきでした。そのため、日本に帰ったら「好きなことを仕事にしたい」「好きな場所に住みたい」と、思うことができました。「人生の楽しみ方」を就職前に知れたこと、これは留学の一つの収穫だと思います。その他、世界中の人と友達になれたことも収穫です。スペイン語は21の国と地域で公用語になっています。だからこそ、スペイン語という言語を通じて、より多くの人と友達になれました。

その他、留学に行って良かったと思う事。それは、知らない世界の状況を直接見て勉強できたことです。手をつないで歩く同性愛者のカップル、スーパーの前で物乞いをする人、ビーチでブランド品を売る移民・・・これらの光景を見ることができました。アフリカ大陸からまずスペインに渡り、ヨーロッパの生活を始める移民が多いです。先ほどのような光景を目の当たりにした後は、「LGBT」「移民」「失業」といったワードについて、「自分で調べよう」と思ったため、良い勉強の機会でした。

スペインでの生活はあっという間に過ぎていきました。その間、楽しかったこと、大変だったこと、勉強になったこと、嬉しかったこと、色々なことがありました。「また、スペインに行きたい」、これは今も変わりません。「今度いつ行こうかな」と考えているところです。エッセイを書いている今も、「懐かしいなあ」と、記憶を遡っています。次回のエッセイでは、現在私が住んでいる「日本にある外国」について紹介します。



山から見たマラガ市街地の眺め



お家で台湾料理パーティー